

安全データシート

改訂日：2026年4月22日

作成日：2016年4月7日

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	： シングルセメント
供給者の会社名称、住所及び電話番号	： 静岡瀝青工業株式会社 静岡県焼津市高新田 810 番地 TEL:054-622-1255
供給者のファクシミリ番号又は電子メールアドレス	： FAX：054-622-6457
緊急連絡電話番号	： TEL：054-622-1255／受付時間：月～金曜日 8:00-17:00
推奨用途	： 防水用接着剤
整理番号	： D-G21-321003B

2. 危険有害性の要約

化学品の GHS 分類	
引火性液体	： 区分 3
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	： 区分 2
発がん性	： 区分 2
生殖毒性	： 区分 1B
特定標的臓器毒性，単回ばく露	： 区分 3（気道刺激性）
特定標的臓器毒性，反復ばく露	： 区分 1（呼吸器）、区分 2（中枢神経系）
水生環境有害性 短期（急性）	： 区分 3
水生環境有害性 長期（慢性）	： 区分 3

GHS ラベル要素

絵表示



注意喚起語

危険

危険有害性情報

引火性液体及び蒸気
強い眼刺激
発がんのおそれの疑い
生殖能または胎児への悪影響のおそれ
呼吸器への刺激のおそれ
長期にわたる、または反復ばく露による呼吸器の障害
長期にわたる、または反復ばく露による中枢神経系の障害のおそれ
長期継続的影響によって水生生物に有害

注意書き

【安全対策】

- ・ 使用前に取扱説明書を入手すること。
- ・ すべての安全注意を読み、理解するまで取り扱わないこと。
- ・ 熱、高温のもの、火花、裸火および他の着火源から遠ざけること。禁煙。
- ・ 容器を密閉しておくこと。
- ・ 容器を接地しアースをとること。

- ・ 防爆型の電気機器／換気装置／照明機器を使用すること。
 - ・ 火花を発生させない工具を使用すること。
 - ・ 静電気放電に対する処置を講ずること。
 - ・ 粉塵／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
 - ・ 取扱い後は手、顔をよく洗うこと。
 - ・ この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。
 - ・ 屋外又は換気の良い場所だけで使用すること。
 - ・ 環境への放出を避けること。
 - ・ 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。
- 【応急措置】**
- ・ 皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。皮膚を流水／シャワーで洗うこと。
 - ・ 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗う。コンタクトレンズを着用していて、容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 - ・ 眼の刺激が続く場合：医師の診断／手当を受けること。
 - ・ 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 - ・ 気分が悪い時は、医師の診断／手当を受けること。
 - ・ ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診断／手当を受けること。
 - ・ 火災の場合：消化するために適切な消火剤を使用すること。漏出物を回収すること。
- 【保管】**
- ・ 高温多湿を避け直射日光を遮断し、換気の良い所で施錠して保管する。
- 【廃棄】**
- ・ 内容物／容器を地方／国の規則に従って廃棄物処理業者に依頼して廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 混合物
成分及び含有量

成分	含有量(%)	CAS 番号	化審法番号	安衛法	
				表示	通知
ブローンアスファルト	29	64742-93-4	9-1719	該当	該当
ターペン：以下成分を含む	21	64742-82-1	9-1698	該当 ^{※1}	該当 ^{※1}
トリメチルベンゼン	(2.4)	25551-13-7	3-7	該当	該当
キシレン	(0.5)	1330-20-7	3-3	該当	該当
その他	残余	非開示	既存	非該当	非該当

※1：石油ナフサとして

4. 応急措置

- 吸入した場合
- ・ 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 - ・ 気分が悪いときは医師に連絡すること。
- 皮膚（又は髪）に付着した場合
- ・ 皮膚に付着した場合：多量の水／石鹼で洗うこと。
 - ・ 皮膚刺激が生じた場合：医師の診断／手当を受けること。
- 眼に入った場合
- ・ 直ちに、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて、容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を 15 分以上続けること。

- 飲み込んだ場合
- ・ 口をすすぐこと。気分が悪いときは医師の診断／手当てを受けること。

5. 火災時の措置

- | | |
|--|---|
| <p>適切な消火剤
使ってはならない消火剤
火災時の特有の危険有害性
特有の消火方法</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス消火剤、水噴霧 ・ 棒状放水 ・ 燃焼により一酸化炭素、二酸化炭素を生成する。 ・ 火災発生場所の周辺には関係者以外の立ち入りを禁止する。 ・ 消火作業は、風上から行う。 ・ 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 |
| <p>消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 適切な呼吸用保護具、防護服（耐熱性）を着用する。 |

6. 漏出時の措置

- | | |
|---|--|
| <p>人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置
環境に対する注意事項</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 漏洩時の処理を行う際には、保護手袋を着用する。 ・ 流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を及ぼさないように対処する。 |
| <p>封じ込め及び浄化の方法及び機材</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 回収：粘稠性液状の製品であり、流動性がないため、物理的にスコップ等で適切な空容器に回収する。 ・ 中和：「13. 廃棄上の注意」に従い適切に処理する。 |

7. 取扱い及び保管上の注意

- | | |
|------------------------------------|--|
| <p>取扱い
技術的対策
安全取扱い注意事項</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 適切な全体換気または局所排気を行う。 ・ 「8. ばく露防止及び保護処置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。 ・ 取り扱いは、屋外か、適切な換気設備の下で行う。 |
| <p>接触回避
衛生対策</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 眼、皮膚との接触を避ける。 ・ 取り扱い後は、手、顔をよく洗う。 |
| <p>保管
安全な保管条件</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 換気の良い涼しい場所で、容器を密閉して保管すること。 ・ 施錠して保管すること。 |
| <p>安全な容器包装材料</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ オリジナル容器に保管する。 |

8. ばく露防止及び保護措置

<p>労働衛生安全法 管理濃度 濃度基準設定物質 許容濃度</p>	<p>キシレン 非該当</p>	<p>50ppm</p>
<p>日本産業衛生学会</p>	<p>キシレン（全異性体） トリメチルベンゼン（全異性体）</p>	<p>50ppm 25ppm</p>
<p>ACGHI (2020 年版)</p>	<p>キシレン（全異性体）</p>	<p>TWA 100ppm</p>

設備対策	トリメチルベンゼン（全異性体） 25ppm <ul style="list-style-type: none"> 適切な全体換気または局所排気を行う。 取り扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い、洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。
保護具	
呼吸用保護具	<ul style="list-style-type: none"> 通常が必要としない
手の保護具	<ul style="list-style-type: none"> 耐透過性保護手袋、PVA、バイトン／ブチルゴム、LLDPE 多層フィルム、EVOH 多層フィルム製等を推奨
眼保護具	<ul style="list-style-type: none"> ゴーグル型保護眼鏡
皮膚及び身体の保護具	<ul style="list-style-type: none"> 長袖作業衣

9. 物理的及び化学的性質

【製品中のアスファルトに関して】

物理状態	液体
色	黒色
臭い	石油臭
融点／凝固点	情報なし
沸点又は初留点及び沸点範囲	情報なし
可燃性	可燃性
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	情報なし
引火点	>44°C
自然発火点	情報なし
分解温度	情報なし
pH	情報なし
動粘性率	約 2000Pa・s
溶解度	実質的に不溶
n-オクタノール／水分配係数	情報なし
蒸気圧	データなし
密度及び／又は相対密度	情報なし
相対ガス密度	情報なし
粒子特性	情報なし

10. 安定性及び反応性

反応性	<ul style="list-style-type: none"> 通常の条件下では安定である。
化学的安定性	<ul style="list-style-type: none"> 通常の条件下では安定である。
危険有害反応可能性	<ul style="list-style-type: none"> 通常の条件下では安定である。
避けるべき条件	<ul style="list-style-type: none"> 熱源、炎、火花
混触危険物質	<ul style="list-style-type: none"> 強酸化剤、強塩基
危険有害な分解生成物	<ul style="list-style-type: none"> 燃焼により一酸化炭素、二酸化炭素を生成する。

11. 有害性情報

急性毒性（経口）	<ul style="list-style-type: none"> 区分に該当する製品を含んでいない。
急性毒性（経皮）	キシレン ウサギ LD50 1700, >4000mg/kg
急性毒性（吸引）	キシレン ラット LC50 6, 350~6700ppm(4時間)

安全データシート：シングルセメント **D-G21-321003B**

皮膚腐食性／皮膚刺激性 眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	トリメチルベンゼン アスファルト トリメチルベンゼン キシレン	ウサギを用いた試験で中等度から重度の刺激 眼刺激性が複数報告されている ウサギを用いた試験で軽度の刺激性 ウサギを用いた試験で軽度から中度の刺激性
呼吸器感作性又は皮膚感作性 生殖細胞変異原性 発がん性 生殖毒性	・ 有用な情報なし。 アスファルト 酸化アスファルト キシレン	in-vivo 体細胞変異原性、遺伝毒性試験で陽性 IARC 評価 クラス 2A ラット、ウサギを用いた催奇性試験で奇形の増加
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	アスファルト	アスファルトヒュームは気道刺激性がある。
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	アスファルト トリメチルベンゼン	ヒュームの吸入で呼吸器系へ影響お及ぼす。 ヒトにおいて中枢神経系に影響示唆、動物試験で中枢神経系、呼吸器系に影響。
誤えん有害性	・ 誤えん有害性成分を含有するが、粘性率が非常に高く区分に該当しない。	

12. 環境影響情報

生態毒性（急性）	魚毒性	1, 2, 4-トリメチルベンゼン	LC ₅₀ (ファットヘッドミノー)	7. 7mg/L(96 時間)
		キシレン	LC ₅₀ (ニジマス)	3. 3mg/L(96 時間)
	甲殻類	1, 3, 5-トリメチルベンゼン	EC ₅₀ (オオミジンコ)	6mg/L(48 時間)
残留性・分解性	・ キシレン、トリメチルベンゼンは急速分解性ではない。			
生体蓄積性	・ 情報なし			
土壤中の移動性	・ 情報なし			
オゾン層への有害性	・ モントリオール議定書の附属書に列記された物質を含まない。			

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	・ 事業者は産業廃棄物を自ら処理するか又は都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託して処理する。
汚染容器及び包装	・ 内容物を除去した後処分する。 ・ 容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

14. 輸送上の注意

国内規制	下記、輸送に関する国内規制に該当するので、各法の規定に従った容器、積載方法により輸送する。
陸上	・ 消防法の規定に従う
海上	・ 船舶安全法の規定に従う
航空	・ 航空法の規定に従う
国際規制	
海上輸送	
国連番号	・ UN1993
品名	・ その他の引火性液体、n. o. s (石油ナフサ混合物)

国連分類	・ 3
容器等級	・ III
航空輸送	
国連番号	・ UN1993
品名	・ その他の引火性液体、n. o. s (石油ナフサ混合物)
国連分類	・ 3
容器等級	・ III
緊急時応急処置指針番号 (NAERG)	・ 128
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策	・ 店頭、落下、破損のないよう積み込み、荷崩れ防止を確実に行う。 ・ 直射日光を避けて輸送する。

15. 適用法令

該当法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報

化学物質排出管理促進法	第一種指定化学物質	トリメチルベンゼン(平均 2.4%)
労働安全衛生法		
表示義務、通知対象物質	・ アスファルト、石油ナフサ、トリメチルベンゼン、キシレン	
皮膚等障害化学物質	・ キシレン	
毒物及び劇物取締法	・ 非該当	
消防法	・ 危険物 第4類第三石油類 危険等級III 非水溶性	

16. その他の情報

【参考文献】

GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法 JIS Z7253 (2019)
原料サプライヤーSDS
NITE 公開、政府 GHS 分類結果
NITE CHRIP

記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データにもとづいて作成しておりますが、含有量、物理化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。また、注意事項は通常の取り扱いを対象としたものなので、特殊な取り扱いの場合には、用途・用法に適した安全対策を実施の上ご利用ください。この SDS は、新しい知見により予告なく改訂することがあります。